

4 ネーミングライツ・パートナーを募集!

問 財政経営課(役場3階) ☎823-9201 FAX.823-9203

事業者の広告機会の拡大や安定的な自主財源確保による持続可能な施設運営・町民サービス向上のため、ネーミングライツ・パートナーを募集します。

ネーミングライツ・パートナーとは

海田町の公共施設に企業名や商品ブランド名などを冠した愛称を付与することができる権利(ネーミングライツ)を取得して、その対価としてネーミングライツ料を納めていただく民間事業者などのことです。

ネーミングライツ・パートナーのメリット

- ・海田町の公共施設の愛称として、看板や町の行う広報活動などを通じて多くの人の目に触れることにより、企業名や商品ブランド名の宣伝効果が期待できます。
- ・ネーミングライツ料は、海田町の施策の財源となり、町民サービスの向上に使われますので、CSR(企業の社会的責任)にも貢献できます。

募集する施設

施設名	付与期間	ネーミングライツ料
ひまわりプラザ 	3年間以上 (年単位)	50万円/年 (税抜)以上
福祉センター 		

募集要項などは海田町ホームページを確認してください。



5 海田町水道ビジョン(素案)のパブリックコメント

問 上下水道課(役場3階) ☎823-9211 FAX.823-9839

素案の概要

海田町水道ビジョン(素案)

海田町では平成30年度に水道事業の課題や目標をまとめた計画期間10年の海田町水道ビジョンを策定し、施設や管路の更新などに取り組んできました。今回、策定から5年が経過したことから中間見直しを行います。

意見の募集対象者

- ・町内に住所を有している個人
- ・町内に事務所、事業所などを有している法人やその他の団体
- ・町内の事務所、事業所、学校などへ通勤や通学をしている個人
- ・海田町水道事業が供給する水道の契約者

資料の閲覧方法

海田町ホームページからダウンロードできるほか、織田幹雄スクエア、海田東公民館、図書館、ひまわりプラザ、上下水道課で閲覧できます。(ただし開館・開庁時間に限る)

意見の提出方法

住所と氏名を記入の上、各閲覧場所に設置の箱に投函、郵送、FAX、メール、いずれかの方法により提出してください。

意見募集期間 12月5日(木)～12月18日(水)



▲災害時に水を配る給水車

海田
Monthly
トピックス

かいた

ワクワク宅配便

素敵なことがいっぱい海田町。
町に溢れる「ワクワク」を毎月皆さんにお届けします!

西国街道・海田市ガイドの会

西国街道・海田市ガイドツアー

～江戸時代の主要道路、西国街道かいわいを散策しませんか～

「西国街道・海田市めぐり」

旧千葉家住宅など西国街道沿いの歴史資源を回るコース

- 日程 12月28日(土)
- 集合 13時にJR海田市駅北口
- 申し込み 12月20日(金)まで

「西国街道・東海田と瀬野川めぐり」

春日神社から瀬野川沿いに河川敷を通るコース

- 日程 12月21日(土)
- 集合 9時30分にJR海田市駅北口
- 申し込み 12月13日(金)まで

両コースとも

- 行程 約2時間30分
- 参加費 100円(保険代、資料代)
- 定員 10人(先着順)
- 申し込み 電話でかいたブランド課へ(8時30分～17時15分 土・日曜日、祝日を除く)

高齢者いきいき活動
1
ポイント

希望する日程でも
ガイドができます!
お気軽に相談
してください!



海田里山ガイドの会

ひのうらやま

日浦山登山ガイド

標高約346mの「日浦山」を、地域ボランティアの案内のもと登ってみよう!

定期
ガイド

- 日程 12月14日(土)
- 集合 9時30分に織田幹雄スクエア
- 申し込み 12月6日(金)まで

随時
ガイド

- 希望する日時で相談してください。
- 集合 織田幹雄スクエア
- 申し込み 希望日の1週間前まで



- 行程 (登り)Aルート (下り)Bルート 約2時間30分
- 参加費 100円(保険代を含む)
- 持ち物 タオル、飲み物、軽食、健康保険証など
- 申し込み 電話でかいたブランド課へ(8時30分～17時15分 土・日曜、祝日を除く)
※小学生以下の人は保護者同伴。

日浦山登山バッジ

- 価格 500円/個
- 販売 ①かいたブランド課窓口 ②織田幹雄スクエア1階(カプセルトイレ)

開館中は
いつでも買えます!

自治会長研修

問 海田町自治会連合会事務局(住民活動センター内(役場1階))
☎823-9225(FAX兼用)

海田町自治会連合会では、各自治会活動の参考とするため、自治会長の研修を行っています。今回は「防災」をテーマに9月26日(木)に「広島市豪雨災害伝承館」を訪問しました。

ここは平成26年8月に発生した豪雨災害を検証する施設で、もしまた災害が起きても犠牲を一人も出さないために何が必要かを研修しました。

参加した自治会長からは、「災害を忘れることなく伝承すること、防災の重要性を再認識した」「被災体験の話を聞き非常に参考になった」などの感想が聞かれました。

